060　ぼやき　　020825

◎連日気温が 35 度を超えている。アトリエの温度計が三日前は 39.7 度をさしていた。毎日昼の 12 時近くなってくると、扇風機の風がホワリ暖かくなり、3 時頃に最高温度になり 5 時頃から少しずつ下がっていく。晩飯を食って夕方 6 時過ぎに河原に向かって自転車で出発するが、まだ季節的には陽の光がしっかりあり、河原の土手の影に入るまで焼けそうである。昼間、自転車に乗って買い物やらの用事に出かけるが、オレぐらいの老人はほとんど見当たらい。若者、中年の方々もギンギン照りつけたこの時間は人出がほとんどない。地域の公民館教室が昼過ぎからある。来られている方々はほとんど老女、みなさんぐったりした顔で座っておられる、冷房の効いた室内で少しずつ生気を取り戻していく、危険な暑さというが、暑いねえ。

◎昨日茨木警察署に行き、車庫証明の書類をもらってきた。13 年前もアコードのためにこの作業をしたはずだが、すっかり忘れている。パソコンで検索してみ本を見て書類を作った。衣川さんからステップワゴンをゲットした。8 月に車検が終わったら、この車庫証明書をもって陸運局に行かねばならない。13 年前は自転車で行きさっさと手続きが終わり岡村名義の車検証を手に入れた。難しく思う人は陸運局近辺の司法書士事務所に頼めばやってくれるよと書いてあるが、なんとか自分で頑張らにゃ。

◎先日、このステップワゴンで信州駒ケ根まで往復した。数人乗せるために大日まで行き吹田 IC から進んだ。出発する時にガソリンは 1.2 目盛り減っていた。この車は目盛りが 20 分割されている。駒ヶ根からの帰路、「ガソリン入れたい」「270 キロ持ちませんか」「ええええ　そらあ無理かも」「長野も　高速の中も　ガソリン代が高い　針までもちませんか」「針？　奈良県の針？　行けるところまで行ってみるか」車が名古屋に近づいたころに、「ガソリン　入れてください」というランプがつき、目盛りは 4 であった。「このランプがついて 100 キロ　走れる　普通なら」「この車　高速なら　リッター14 キロ　伸びますね」「目盛りが 4 なら　140 キロ　行けるかな」なんともはや恐ろしい実験である。名古屋手前で目盛りが 2 になった。「1000 円入れてください」「たった　1000 円・・」いれても目盛りは 4 になったがランプは相変わらず点ったままである。名古屋湾岸道路を過ぎ、亀山から名阪国道に入った。運転しながら前を見てメーターを見て、道路標識から天理あたりまでの距離を見た。「目盛り 1 が 2.5 リッター　目盛り 1 で 30 余キロ走るが・・」と思いつつ進んだ。ついに 1 を切り 20 キロほど進んだ時点で、上野あたりになった。多少土地勘のある場所、三宅さんが住まいする所、「ここで降りて　また　1000 円入れないと　JAF を呼ぶことになる　みっともない」ガソリンを入れて針に進んだ。上野で入れなかったら JAF 事態になっていた。上野から針まで直線で 20 余キロである。

◎「絵の調子はいかが」と聞かれると、「おお　絶好調　だ」と答えなければいけないが、絶好調なんて長続きはしない。えかきを見ていると、彼らの絶好調は長くて 20 年、その 20 年が彼らの生涯でいつ来るかだね。二十歳前後に来た輩は、天才だ、素晴らしい、と称賛されそれからの人生を保証されるという公算が高いけど、中年や熟年になって輝きだした輩は、「なんだ　二番手　じゃねえか」と揶揄されるのかもしれないね。とつまらない一般論でぼやきを言って申し訳ない。最近はアトリエの床や棚に積まれた小さい絵を引っ張り出してきて修繕の日々。そんな日々が飽きると、白いキャンバスを引っ張り出してきて色を投げつけている。この修繕、何年か前まではまったく手に負えなかった、重ねて行けばますます濁って、「まだまだ　もうちょい」といくらでも粘ってそのままお蔵入りになっていた。そんな頑固な奴らの、目からうろこの、発想の反転の、帰し技を見つけた、これがあたって楽しく描いている。楽しく描けりゃ、白いキャンバスも楽しく描ける、とご機嫌な毎日を過ごしている。

◎今日は涼しいのでは、と温度計を見やると 37 度、39 度に比べ涼しく感じる。老齢で温度が感じないのでは、と指摘は正しいかもしれないが、元気である。

061　ぼやき　070825

◎アトリエで、50 号の絵を二つひっつけ、100 号にする工作をしていた。「こらあ　意外と　大変だ」これぐらいの作業、ひょいひょいとやっていた頃が懐かしい、「こんなもん　すぐにできる」と始めたが、きりで木材に穴を開けネジを差し込み電動ドライバーで絞めていく。ネジくぎを 20 本も絞めていくと、「あちゃー　まだかいな」と弱音が出る。それが終わって材木を 45 度にノコギリで切って仮額をくぎで打ち込む。2 枚のパネルをひっつけるのに、裏から 4MM のベニヤで何か所か貼り付け、仮額でも補強して、「ま　これで展覧会に出しても　もつだろう」とぐったり疲れた。こんなことがこれほど重圧とは、であった。

◎我が家の車はホンダのステップワゴンである。これをもらいもう何度か運転したが前のトヨタのノアに比べ、運転しやすい、燃費が多少いい、いいことずくめである。ずうたいも長さも幅もほとんど同じだと思うが、こっちの方がいいというのは、オレの個人的感覚なのかな。「車検　だしたげる」というううれしい話に早速とびのった。それで先日来何度か豊中の衣川邸に行っている。2 年前のトヨタ車、今回のホンダ車、購入、名義変更、車検これらの雑用が続く。

◎まず野菜の話。枝豆、きゅうり、なすびをもらった。「毎日　何本ずつかできる　一人じゃ追っつかん」「枝豆は　田んぼの畝などで　作ってる　なので水が要る　今年は雨が少ないので　豆のつぶが小さい」これは少し塩を入れて 5 分ほど茹でた。「つぶは　小さいけど　おやつ代わり　ひとにぎり　すぐになくなった」きゅうりは少し大きくなったものもあるが、太くても瑞々しくパンに挟むといと美味しである。こんだけあるならきゅうちゃん漬けと調味料を入れ煮込んだ、これもいと美味しである。ナスは大好物、まずは煮びたしでその日に喰った、あとは炒めるとすぐになくなる。最近は野菜だけのおかずが増えてきた。動物たんぱく質も取らねばとわざわざ思うぐらいである。

◎眠剤の話。「眠剤を飲むと　よく眠れる」というと、いつもの元広さんがあまりいい顔をしない。カミさんは、「もう　40 年も飲んでる」と豪語する。まわりでも、「すぐの勧められる　要りませんか」と言われるという。「眠剤は飲まない方がいい　とはなんでかな」と思いながら、30 日分もらい、毎日続けると眠りが深く翌日の体調がいい。「すっごく　体調がいい」「しゃあないな」どうも出し渋っているがもらった。一か月欠かさず毎日飲むと身体の調子はいい。「彼がそこまで言うのなら　半分に割って　またその半分に割って」なんて試してみた。まず飲まずに横になると眠れない。「ええい　本でも読むか」1 時間たっても眠くならない。薬を飲まないと眠れなくなる、習慣性がつき徐々に効かなくなる、どこかに副作用が出る、なんだろうね。1 か月半たった今、飲まない日、半分の日なんて続いている。

◎車の車検は、大きいところでは同じような進め方だと思うが、まず 1 時間ぐらいかけ車を調べ、見積書を持ってくる。「ここと ここは　修理改善が必須　ここも悪いが　今回しますか」てな感じで項目を減らしていく。タイヤは見た目充分に溝があると思っていたが、「経年で　多少　ヒビが　入ってきています」前のトヨタ車では、山道でバーストして痛いめにあった。すぐに近所で 4 本を入れ替えた。ホンダ車も近々4 本入れ替えかな。

◎ホンダ車の名義変更が待っている。前のアコードの時は寝屋川の陸運局に自転車で行き簡単に完了したように思う。当時に比べ、「ネットで検索」という協力者があるが、読めば読むほど不安になる。何度も行くのには遠すぎる、一度ですませたいものである。車庫証明は来週にはもらえる。車検は盆休みを挟むので、今月下旬終わる。名義変更は月末なるのかな。

062　ぼやき　090825

◎「眠剤を飲むとすぐに寝つける　ぐっすり眠れる　翌日の体調がいい」なんて言っていたら、「眠剤はよくないよ　身体に」と聞き、「？？　よくない　まわりのみんなが　のんでいるぞ」「そんじゃ　ちょくっと　やめてみるかな」「人にいわれりゃ　すぐに方針を変える　根性なしか」とまあ　おおげさな話は抜きにして　眠剤をやめると、「え　眠れない」1 時間、2 時間と眠れない。「どうせ眠れないなら　本だ　読むぞ」てなことで枕元にいくつか置いて読んでいる。

◎土井善春（11 歳下）：一汁一菜でよいという提案、福岡伸一（13 歳下）：動的平衡 2、この 2 冊をだらだら読んでいる。著者のお二人とも会ったことも話したこともないが、TV の有名人、立ち居振る舞いからお二人とも舌鋒鋭く攻撃的に話すわけ訳でもなく、腰低くにこにこしておられるが言っていることの筋が通っていて、「おお　さすが」「いい人　で　あろうな」といつも思っているが、「知らんヤロウね　実は　あいつは・・」ということもよくある、俗っぽい話は聞かぬが華である。

◎土井善春のお父さんが TV で料理を造っていたのを知っている。若いころでその料理が美味いか否かに興味はなく、淡々と話すその人を見ていた。競歩の選手と思っていたが、陸上全般の全国的なすごい選手だったと息子の弁。息子の土井善春さんの本、家庭のごはんは“ごはん”と“具だくさん”の味噌汁と“漬物（香のもの）”でいいという。素朴な言葉で淡々と、美味しいもののことを語っていく。
包丁は、正確に美しく冴えて切る。早く切ることはいらない。
フランス料理のシェフは、「今日の　自分の　ベストを　食べてくれ」という。
フランス料理のシェフは、「芸術に関心を持って　美に触れるべし」という。
若いころは全力で仕事をしてきた。まっすぐ立ってすぐ反応する。コツがわかって来てますます道具が味方をしてくれる。

◎福岡伸一：動的平衡 2。この先生のサイエンス番組をよく見ていた。お洒落な方だが、なんだか病的な顔をしておられると思っていた、彼の文章を読んみその簡潔で平易でしかも示唆に富んでいると感心した。以後顔は見ないことにしようと・・。
◎身体のほとんどの部分が、アミノ酸が結合してできた、たんぱく質と水分で構成されている。これは中高生が習っていることらしいが、オレは無知だった。
◎体は、なぜたんぱく質をタンパク質として吸収せず、わざわざ分解と合成を繰り返すのだろうか。それは、生命には時間があるからだ。分解とは潰れていくことでその先は死である。死に近づくのに抵抗するためたんぱく質を合成して傷んだ部分を壊しては作り直す。
◎肉、魚、穀物、に含まれるたんぱく質は、ヒトの消化管で 20 種のアミノ酸に分解される。9 種は必須アミノ酸である。植物や微生物はほとんどすべてのアミノ酸を自前で合成できる。ヒトを含む動物は、いくつかのアミノ酸を自前で合成できない。できないアミノ酸を“必須アミノ酸”という。
◎生命は生まれたときから、死に向かって進む。これはすごい話である。
◎生命は自分のコピーを作るために、生殖のために生きている。遺伝子は生物の個体を乗り物にしているに過ぎない。
◎だけど生物を観察していると、生物はのんびり楽しんでいるではないか。

◎人を含め動物たちも、自分の子孫を残すことは大事だけれど、その一生、生殖、子育て、の時間もあるけど、笑って泣いて、えたり顔して喜んだり、大損をしたと悔しがったり、そんな顔をしている犬猫はもちろん、鳥も魚もいそうな気がするねえ

063　ぼやき　150825

◎本のことでもう一冊、だらだら読んでいるものがある。こいつを読み始めたころは、なんだか眠たくて、布団の中に入って1ページもめくるころには眠気が襲ってきた、襲ってきたものに逆らうわけにもいかず、すいと寝ていたので、ちょっとずつちょっとずつ読んでいた。「昨日は　なんの話だったか　そうそう　あそこの場面で・・」てな具合に思い出しては辻褄を合わせ、わかったのやら楽しんだのやら、であった。なかなか寝付け無くなって、30分1時間と読み進むうちに、「これは　場所は　どこだ」「彼は　誰だ」とますます興味が湧いてきた。

◎最近、熊の被害をよく聞く。北海道のヒグマは大きいぶん、で会うだけで恐ろしいと思っていた。本州にいるツキノワグマは猪ぐらいの大きさ、恐ろしさも半分ぐらいかなと思っていた。東北にはマタギという人たちがいて、熊を追いかけ回し狩っていた。むろんつかまえて殺し食料に、毛皮に、特に“熊の胆”は薬の材料として高く換金されていたようだ。関西では今まで熊の被害による大きな殺傷事件は少ない、大きな事件は北の方かなと思っていた。この本を読んで熊専門の猟師、昔からの熊撃ちは東北地方の人たちで、熊もその報復に東北人を襲っているのかなとも・・。

◎マタギは、猟師でもなく、鉄砲撃ちでもない、昔からのマタギだそうだ。むしろ近代になって、もうマタギなんて生き方をする人はいなくなり、「おれは　マタギじゃない　鉄砲撃ち　だ」ということらしい。

◎著者も豪のモノなうての登山家で、外国の山も制覇している方だそうだが、マタギの山の歩く速さにはびっくりすると書いてある。これを読んで、遠野物語で村人が山に入ると、大きな人が現れびっくりするような早さで山道を駆け抜けていく、あれは人じゃなくて、鬼か妖怪かという昔話が載っていたのを思い出す。自慢話ではないが、50歳代にはオレも足が速かった、「はや～」と知らない人が横でつぶやいていたが、比じゃないね。

◎地図の読めないオレ、本がなかばすんだころまでこの場所は山形県と思っていたが、どうも青森県の話で、山形県は秋田県のまだ南側である、と、がくん。

白神山地マタギ伝：鈴木忠勝の生涯＜根深誠著＞

◎江戸時代各藩は、幕府に対する報告義務として藩日記、絵図面、検地帳が作られた。クマ狩りの状況が、「弘前藩庁日記」に出てくる。

元禄15年12月14日（赤穂浪士の日）熊胆を乾燥させ上納した。仕留めたのは3日前、仁介ら3人、「暗門四歳雄　耳元から尻尾まで4尺5寸　胴回り3尺　熊胆長さ5寸」熊胆は貴重な万能薬で、今も1万円/1Gらしい。この時代はヤリやタテを使っていた。村田銃の頃も、ヤリやタテを使うマタギもいたらしい。

◎熊を仕留めることを鈴木忠勝は、「立てる」という。クマが立ち上がって倒れかかるような態勢で襲い掛かって来た時、マタギは素早く熊の懐に飛び込んでヤリやタテの刃を上に向けて地面に突き立てる。襲い掛かった熊はそれでひとたまりもない。これはマタギの武勇伝ではないかなと著者。

孫爺が立てた熊は気が荒く、雪庇（まぶ）から飛び跳ねて襲いかかってきたそうだ。ダッとヤリを立て押した。押すだけなら負けてしまうのでヤリをねじった。捩じると熊も体を捩じらせる。クマは体を捩じらせながら暴れまくって、孫爺のこぼら（ふくらはぎ）を爪で引き裂いたそうだ。それでもどうにかして仕留めたんだド。大熊は最初逃げても、途中から必ず捩じり返し立ち向かってくる。

◎マタギは熊を仕留めたあと、解体に伴う一連の儀式を執り行う。目屋のマタギはその儀式を、「祝いジシ」と呼んでいる。まず最初に、仕留めた熊の頭を北向きにして解体作業にかかる。「カワハギ」と言って仰向けにした熊の腹部を下から上に、あるいは喉から下へ切り裂き、手足の皮を剥ぎ取る。

着皮といって、昔は熊の皮も着たもんだが、その時は裂き方がちょっと異なるんだナ。それに手の皮を剥ぐのが面倒くさい手間もかかる。被毛で覆われた黒々とした皮を剥ぎ取られた熊の死体は白い脂肪で包まれている。その白い肉の塊に、「逆さ皮」を着せると言って、二人で皮を持ち上げ回転させて皮の頭部を肉の塊の尻尾の方へ、全員で被り物を取って呪文を三回唱え礼拝する。

064　北小松　　170825

◎JR 茨木駅発 6：33 の電車に乗り 7：50 に北小松駅に着いた。お盆休みの土曜日ながら電車は空いている、ずっと座ることができた。もうすぐ降りなければというあたり、車窓から左の山を見ると、目的のあたりに綿菓子のような雲が付いている。予報を見て今日が一番安全だろうと決めた。この数日毎日のように驟雨（夏に発生する激しい雷雨）が来た。先日もたった 20 分、バケツをひっくり返したような降り方にピカゴロがまじかで激しく騒いだ。ちょうど橋の下で雨宿りで難を逃れたが、あの雨、たった 10 分でも雨宿りのできない山では濡れネズミになる。ツエルトでも持って水の流れない所でやり過ごすのが一番いいかな。60 歳代に北アルプスで驟雨にあった。80 リッターの荷を背負い、あと 1 時間で小屋という所だけれど雷がきついので、窪みでしゃがんでやり過ごそうとしたが、窪みに水が流れてきて焦った覚えがある。＜澤山さんと：飛騨トンネル P より北の俣避難小屋 2 泊、雲ノ平テント 1 泊、彼は小屋泊＞

◎7：50 歩き出した。林道は陽が照っているが山の方は曇っている。どうぞ降りませんよう願いつつ、「今日はオレひとりじゃ　ないだろう」と思ったが終わってみると、ペアの若者に追い抜かれた、ヤケオで熟年オヤジが降りてきた、最後に中年元気に追い抜かれた、その 4 人だけだった。

◎8：10 涼峠。いつもの定点コース、今日の体力は中ぐらいかな。ノンストップで登ってきたが体力の余裕は余っていない。駅では 10 人ぐらいの登山客が降りたが、よそに行ったようで登ってこない。「夏の低山は　沢登りだ」とどこかの谷筋に入ったのかもしれない。若いころ阪口さんに連れられ 2.3 回沢を挑戦したがオレは好きでない。当時わらじを買ってこの比良山系を歩いた。

◎9：15 ヤケを過ぎ、鞍部を抜け、いよいよ登りだという所で一本取った。涼峠でパンを一個、ここでバナナとパンと水を飲んだ。真夏の今、水 2 リットル持参、今日も袖なしヘロヘロシャツ、これは涼しくていいが、すでに全身びっしょりである。

◎この定点コースの道、琵琶湖が見える尾根道、眺望がきき、風が吹き、なかなかにいいんだと言っているが、8 月中旬、盆が終わりかけの今、葉が生い茂りほとんど樹林帯の中を歩く感じ、緑、ミドリ、みどりの中を登っていく。夏の今見れば、3.4 メートルの大きな樹もあるが、雪が積もるとこんな大きな樹があるとは思えない景色、樹も葉が落ちるとただの棒と思ってしまうのかもしれないね。木立いっぱいの樹林帯が雪の斜面に変貌する、不思議な感覚だ。

◎11：15 ヤケオ到着。「おおお　たいやーど　しんどい　ばてた・・」である。なんだか曇ってきた、ぽつり来てもおかしくない雲行きだ。琵琶湖バレーのあたりだけが陽が当たり緑が輝いている、武奈ヶ岳も釈迦岳もどす黒い雲の中、サッサと登ってサッサと喰ってサッサと降りないと夕立に降られると嫌だもんね。

◎涼峠で追い抜いていったペアの若者が、「ここは初めてですが　痩せ尾根があるとか　ヤマップに・・」「まったく大丈夫」「そうですか　また追いつかれるかも」と行ってしまったがそのあと影も見ることなくスイスイ登っていったようだ。

◎12：05 釈迦到着。標識の前で自撮りをしていつもの弁当場、少し下ったところに進んだ。今日のこの樹林帯の山、ほぼ一か月前に来た時は、みどり、緑と言ってもまだ隙間があったけれども、今日は景色が見えない、まったくの樹林帯の山、樹々の中を歩いているようなもんだ。いつもの、遠くの景色が見えるとか、琵琶湖が見えるとか、いやいや琵琶湖は見えたけれど、ほんとにチラリちらりで、山の景色というものはいつも同じというわけじゃなく毎回変わるのだと再発見。

◎2：05 元ケーブル駅に到着。12：30 弁当を食って歩き始め、1 時間半で降りてこられる。下りはこの道が一番早い。荷を置きパイプからちょろり流れる冷たい水の飲み、顔を洗い、タオルを濡らした。まずシャツを脱ぎタオルで身体を拭き、替えのシャツを着た。次に靴を脱ぎズボンを脱ぎ下着まで取った。幸いここは人がいない人が通らない登山道、替えのパンツを、替えの半ズボンを、そして登山靴をはいた。夏の山は全身びしょぬれ、これでさっぱりである。これから 1 時間駅まで歩いて電車だ。濡れた格好で電車は不都合である。3 時半ごろの電車に上手く飛び乗り、5 時頃に帰宅した。

065　ぼやき　190825

◎年寄りは朝が早い。「年寄りは　6時間も寝れば　十分なんだよ」そんなことを言っている人がいたが、他人事だと思っていた。「え　まだ　5時だよ　こんな時間に　オレが　起きるかよ」とびっくりする時間に目覚めごそごそ起き出しようになって　1年ぐらいかな。「オレは　8時間以上　寝ないと駄目なんだ」と言っていた。昼ごろに起き出して一日を過ごしていた、「だらしない人生だった」である。そんなオレが、5時とはわれながらびっくりしている。とはいえ最近は7時ころまで二度寝ができるようになった。身体が楽である。

◎7月に入ってすぐに梅雨明け宣言が出ていた。「え　梅雨は　7月20日までじゃないの？」とびっくりした。7月初旬から夏になって暑い日々が続き、37度という数字がアトリエの温度計に出ていた。この一週間毎日のように雨が降る。夏は暑く陽のあるうちは河原に出られない。6月はじりじり陽に当たりながらも昼間に河原へ出ていた。露出している肌が赤くそして徐々に黒くなっていった。それでも涼しい風も吹いていたが、梅雨明け以降の夏はとても昼間に走れない。晩飯を食ってから自転車で河原に行っている。この1週間ぐらい天気が悪い、晴れているのか曇っているのか、毎日たくさんの暗い雲が出ている。夕方になって、ポツリで終わることもあれば､走っている最中にザザ振りになることもある｡びしょ濡れで帰ったことも2回ぐらいあるかな。昨日もスマホの予報では曇り空だったが走り始めて 10 分ぐらいでザザッと来た。ちょうど橋がありその下に入った。出る前からコロコロ雷が鳴っていた。「雷　きてるよ」「だいじょうぶ」と出かけたが、ちょうど橋の手前でザザッと強い雨が､「ガラ　ピカ　ゴロ」も強烈になり、橋の下でストップして雨宿りをした。ザザ降りが 15 分ほど続き橋の下の乾いていた地面に、橋からの雨水が流れ出しどんどん濡れていった。土手向こうの大きなマンションの部屋の灯りが消え、信号も点いていない。橋の下ならゴロピカにもザザ降りにも安全だがすごい勢いである。

◎河原にほぼ毎日行っている､「そらあ　ご存知ですねえ」オレが元気なのは、病気もせずいまだに山に登れるのは、この毎日のおかげだと思っている。「元気ですね」と言われるけれど、「どうしてそんなに　元氣なの」とは聞かれない。聞かれないのであらたまって、自慢たらしく言いますと､「毎日の河原ですよ」これに尽きる。「今日はシンドイ　やめておこう」と思ったことはない、これがいいんだよね。

7月早々の梅雨明け宣言で昼間の河原は熱すぎて行けない、なので夕方過ぎの6時頃から河原に来ている。夜は摂津方面の河原は淋しいので、上に向かって、山に向かって、阪急、JRの電車橋をくぐって田中町方面に行っている。

お湯場があるあたりでいつもストレッチをしていると､「けけけ　くくく」ハトが集まってくる｡「なんで･･？」と思っていたが、何日か前に声をかけられたご仁､「すごい　毎日ですか」とオレの運動を賛美される。ご仁は2歳下の近所住まい、地元の田んぼ持ちの方なのか、玄米を持参して鳥たちに振る舞っておられる。「鳥に餌をやると　文句を言う方がおられるので」と隠すようにしてやっておられる。鳥たちはオレとそのご仁とを間違えて､「おっちゃん　おいしいもの　おくれ」と集まってくるようだ。

◎このご仁も含め、オレの同年輩の方々は､「身体の　あちこちが　痛い」「歩けない」「病院に通っている」という人が多くなってきた｡「身体は　なんともないんだけれど　ボケが来て」と自覚している人はいいが、自覚のないボケの方もいる。ボケの自覚が無いということは、本人いたって楽しそうだけれど、カネ勘定もできなく封筒から千円札を何枚も出して戸惑っているのにははらはらする。

話はとんだが､「岡村　おまえ　健康が　一番やぞ」と小金持ちの友人たちから言われる｡「健康もいいけど　小遣いがたっぷりあるのも　いいはずだよ」とは言いだしにくい。

「ゆっくり　鳥に餌やりながら　とぼとぼ歩かないで　ササッと歩けば　身体にいいのでは」とはオレは､「よう　いわんは　そんなエラそうなこと」である。

066　ぼやき　270825

◎車検に車を持って行く、今日出して明日夕方に引き取りだ。車を持つと 2 年に一回この作業がある。古い中古車を持つと車検の都度、「ここが傷んでます」「ここは　交換しないと　ダメです」ということで、「あちゃーモノイリですねえ」と嘆いたことが何度かある。50 歳の頃に 10 万円で買ったマツダの“ボンゴ”今、ふり返って考えると、「廃車寸前だけど　買う人がいれば」という代物だったような気がする。今から考えりゃよく走った、山に行った、クラッチを踏むタイプの車、何度も車中泊した、懐かしい限りだけれど近所での何度目かの車検時、「まだ乗りますか」と言われ、「乗るよ」と言いながら、もうダメかなとも思った。その次は、トヨタのハイエースレジアスをもらった。この車いまだに同じものが時々走っているのには驚き。トヨタの車は去年 2 年足らず乗ったノアと同様、文句なしにいいものだ、文句が無い分好きになれないのかもしれない。それと、ハイエースもノアも燃費が悪い、極暑の夏にクーラーをつけて大阪の渋滞の中を走るとガソリンのメーターの針が、「え」と驚くほどに少なくなっていく。ボンゴもハイエースもホンダの“アコード”も 10 年づつぐらい乗った、ふたつとも文句なく楽しく使えた。アコードは塗装が剥げだし、「こらあ　あわれ　ぼろっちーね」という外観になっていったがスポーツカーの仕様、よく走りよく連れて行ってくれた。車も 20 年ぐらい乗ると前にも言ったように、経年劣化であちこちの部品がだめになってくる。アコードは車検の度に思いもよらない所の交換を余儀なくさせられた。エンジンスターター、スピードメーターの数字が出ない、冷却ラジエーターの水漏れ、いくつも替えたね。

◎車の運転が好きになったのは 40 歳を超えたぐらいかな。若いころ新車も 3.4 台買った。当時の車は開発成長期時代で、早い速いと言ってもさほどスピードが出ない、加速も遅かった。中年になったころから中古車のぼろ車たちがやってきたが、「こんな車が」と思うほどよく走り、ぶい～と加速も一人前である。信州の山に行くのに車を使うと便利がよかった。山は車で行くと、その車のところまで帰ってこなければいけない、離れた登山口に縦走というわけにはいかないというでデメリットはあるが、列車などを降りて、バスやタクシーで登山口へ行くのに比べ、そのまま風呂へ、時間を気にせずそのまま走って帰れる、という便利さはおおいにメリットである。

◎K さんのメール抜粋：ボクは保守リベラルという立場です。保守とは日本の伝統を大切にして、頭で考えるだけの合理主義に疑問を抱き、絶対的正しいという主張に疑問を呈するという立場、西部邁氏、佐伯啓思、中島岳志氏の立場です。保守の反対は革命や急進的改革です。
リベラルというのは、全体主義に反対し、個人の行動や考えの自由を大切にする思想です。
今日本に保守リベラルの政党はあるのか？日本の伝統を壊しているのは自民党、維新、という改革を標榜している政党。経済成長という金儲けしか考えてない輩。
実は共産党は今の日本の政党では一番保守リベラルなのです。
今やリベラルに堂々と反対する政党が出てきた。参政党、主権は国家にありと天皇をあがめる。日本人ファーストと言って排外主義をあおる。東京都民ファーストという小池百合子知事と同じ、自分ファーストという世界。しかし皆はこの危険性のことを知らない。
食料 100%自給だとか、消費税廃止とか目先の心地よい主張で、だまして票を獲得。

◎かつて M さんが、「参政党がいい　すばらしい　維新はダメだ」「外国人が　はびこっている　彼らに勝手な真似をさせるな　日本の福祉を　使わせるな」彼は中国人やクルド人が日本に住みだし、土地を買いあさり、健康保険をもらい、生活保護を受ける、そういう彼らの態度に、またそれを許す日本の行政に、いたく腹を立てていた。

◎オレは政治政策の考えはないが、「何もかも変わるな　今がいい　今のママがいい」である。